会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会	会議場所	第3委員会室
		担当職員	池永
日 時	平成29年1月12日(木曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 34 分
出席委員	◎馬場 ○平本 酒井 富谷 小川 奥村 小松 福井		
理事者 出席者			
事務局	門局長、鈴木議事調査係長、池永主任		
傍聴者	市民 一名	報道関係者 一名	議員一名

会 議 の 概 要

1 開 議

<馬場委員長>

委員会条例の改正により、平成29年1月1日付で小松康之議員が環境厚生常任委員に就任された。今後、環境厚生常任委員会は8人で活動していくので、よろしく願います。

<小松委員>

(あいさつ)

2 事務局日程説明

3 案 件

(1) 子どもの貧困について

<馬場委員長>

今後のテーマとして子どもの貧困に取り組むことになった。委員会としてはこれまで、武雄市でこどもの貧困対策課の新設について、久留米市で子ども食堂についての視察を行った。また視察以外の活動としては、地域福祉計画の改定に際し、子どもの貧困についての記載を追加するよう申し入れを行った。これらを踏まえ、今後、子どもの貧困にどういう角度から臨むべきか、意見は。

<酒井委員>

馬場委員長や山本議員が一般質問でも取り上げられた。議会として関心をもって取り組むべきことだと考える。16期以前の活動としては、子どもの権利について平成24年に豊島区に視察に行った。その後、子どもの権利プロジェクトチームが発足し、山本議員や眞継議員と進めようとしたが、なかなか子どもが権利を持っているという認識が議会全体で共有できなかった。子どもの貧困は家庭の問題だとされることが多いが、そうではなく、子どもには固有の権利がある。子どもは生まれる家庭を選べないので、しっかりと子どもの権利を守っていく必要がある。特に貧困については、常任委員会として見ていく必要がある。一般質問の答弁では、どのよ

うに現状把握していくかについて、具体的な答えがなかった。市の考えを確認し、委員会としてどのように活動するか考えてはどうか。

<馬場委員長>

まずは現状、市の考えを聞くべきとのことである。他に意見は。

<富谷委員>

実態把握が難しい。一般質問でも、要保護や児童扶養手当受給者が増加している現状を答弁された。我々も貧困の実態が分からない。学校や保育園の先生でないと把握は難しい。市長の答弁も、すぐには実態調査できないとのことであった。実態調査のアンケートを行うより、実際に対象者の中に入って困りごとを聴くところから貧困対策ができるのではないか。実態調査に対する市の思いを再度聞きたい。

<小川委員>

本市における状況や、横断的な取り組みを知りたい。横断的な取り組みができていないと、子どもの貧困の声が聞こえてこない可能性もある。教育現場、福祉・子育て支援等で横断的な取り組みができているのか。子ども食堂についての情報も聴きたい。

<福井委員>

大変重いテーマであるが、メンバーが変わっても委員会として続けて取り組んでいけばよい。執行部の考え方は聞きたいが、せつかく委員会で取り組むなら、学校や幼稚園の先生、保育園の保育士等から実態を聴きたい。アンケートで実態把握するのは、貧困の定義が難しく、どのようにデータを出してくるかで武雄市も悩んでおられた。どうなるかは別として現場の話を聞いてみたい。視察に行ってみるものではない。

<平本副委員長>

現場の声は主観でよい。裏付け調査はできない。保育士や学校教員が現場をどう受け止めているのか。子どもの貧困は家庭の問題ではないにしても、家庭から貧困が出てくるので、教育委員会等の一部の所管だけではできない。まず現場の声を聴いて、その後、プロジェクトチーム等を作るにしても、主管がどこで、どれだけの部署が絡んでくるのかの話も今後していかなければならない。現場の声を聴くことから、徐々にステップアップしていけばどうか。

<馬場委員長>

①貧困とは何かという定義が要る。絶対的な貧困、生きていけない層があり、それから相対的貧困、生きてはいけるが貧しい層がある。それらのもとで生まれてきた子どもたちが成長できない状況がある。まず、大きな意味での貧困について、亀岡市の状況を把握する必要がある。

②要保護・準要保護となると、環境厚生在所管になるのかという問題があり、議会全体の運営の中での議論が必要である。京都府が子どもの貧困対策推進計画を策定しているが、これに対応した本市の取り組み、考え方や現状について調査する必要がある。

③山科醍醐では、「こどものひろば」をつくって、民間の人々がこども食堂や学校の先生のOBによる学習支援の取り組みをされている。我々の調査がそういうきっかけに繋がればよいと考える。

<富谷委員>

今、「あゆみ」がされている子ども食堂は、食事だけではなく、OBが来て勉強も見ている。しかし、貧困の定義が難しいが、学校の先生が把握している子どもが実際は来ていない。最近はこの家庭も共働きで帰りが遅く、時間を持て余した近くの

子どもが来て食事している。その家庭が夕食を摂れないような状況ではないが、遊び場として、また勉強を教えてくれる場として来ている子どもがほとんどである。本来、来てほしい子どもに案内しているが、なかなか届かないという課題があるようである。

<酒井委員>

貧困だけに焦点を置くと、対象でない人に届いて対象者に届かないということがついてまわる。しかし子どもの権利として広く捉え、誰が貧困と特定せず、亀岡市で育つ子どもたちへ視線を向けるという意味では、「あゆみ」がされている子ども食堂は必要だと考える。

市の考え方を聞く前に、一般質問等で明確な答弁がなかったものの整理が必要である。また決算分科会で現地視察を行った生活相談支援センターでは、任意事業として学習支援があるが、まだ実施していないとのことであり、考え方を確認したい。民間の力は大変ありがたく、保津の子ども食堂も民間であるが、市として何をやっているのかは確認する必要がある。貧困の定義をしっかりとさせてからその対象者へ、というよりは、貧困で困っている子どもたちを含めて、一緒に育てていくことが必要である。

現場の話を聴いてみたいというのは同感である。ある保育園に子どもの着なくなった服を譲ったところ、服を貸し出したら戻ってこないことがあり、服が用意できない人もいるという話もあった。実態を見ている人に話を聴いて、視点を広げていければと考える。

<福井委員>

一度話は聞いてもよいと思う。しかしその時点で、委員会としてどの部分・どの範囲に取り組むか等、限定していかないと、子どもの貧困は大きい問題である。学歴や学力格差の問題から、社会的問題までである。委員会としてどこまで取り組むかについて、まだ委員の認識がばらばらである。それをどこかで決めていかないとけない。

<酒井委員>

委員会としてどう関わっていけるか特定するのは、もう少し先になると思う。委員の認識を揃えておくのは大事である。様々な審査の際、こういう問題があることを共通した上で行うと議論が深まる。例えば準要保護は環境厚生所の所管ではないが、子どもの貧困として大きく捉えることによって提言していけるのではないか。一般財源化されたので、本市としてどのようにしているのか、他とどう違うのかも見ていかなければならない。

12月定例会で幼稚園の補助金の請願を採択した。PTA会長や幼稚園の園長が来られたが、そのように請願を持ってくる人とは違い、今困っている人は議会に直接来て何か訴えることはできない。しかし我々がそういう視点を持っていることによって、請願が出て来なくても広い視点で、こちらを救済するならこちらはどうかという思いをもって審査できる。テーマの絞り込みは後になるかもしれないが、全体を掴んで共有していければと考える。

<馬場委員長>

なかなか進め方が難しい。資料をまず集めていくことにするか。子どもの貧困以前に、子どもの権利について、前の期で取り組んでいるのか。

<酒井委員>

日本は子どもの権利条約を批准しているが、実際はそうになっていないという認識から、環境厚生で取り扱うことになった。その時も、総務文教と重なるので一緒に取

り組もうということになったが、任期の終わりで時間がなく実現しなかった。今のメンバーが深めていくチャンスだと考えている。

<馬場委員長>

子どもの権利条約そのものを、まず委員会として共通認識してはどうか。

<酒井委員>

子どもの貧困よりも広い範囲になる。子どもの貧困を論じていく前提として権利条約の理解は必要である。子どもの貧困でも当委員会で取り扱えるのかという声があったが、子どもの権利条約となると本当に広がってくる。そこが難しく、プロジェクトチームを以前作ったが、やりきれなかった。子どもの権利については各自が前提として学んだうえで、子どもの貧困に絞った方がよいと考える。

<馬場委員長>

子どもの権利条約を各自で事前に読み、それぞれ感想を出し合って、そこから方向性を見出すことでどうか。

<酒井委員>

条約そのものは長い文章ではないが、それに対して日本が今どれくらいできているかということになると、相当しっかりと見ていかないといけない。

<馬場委員長>

権利条約そのもの話である。

<平本副委員長>

子どもの権利条約をどこまで知ればスタートラインに立てるのか。スタートラインに立って進んでいくのが我々の目標である。スタートラインに立っていない状況を、どう整理していくのか。

<酒井委員>

権利条約そのものはすぐに読める。委員長に許可いただけるのであれば、日本で問題になっていることを、いくつかピックアップして持ってくる。日本では子どもの権利というと、「義務も果たさず権利とは何か」、「家庭の問題だ」、「しつけは家の問題だ」、「貧しいのは親の問題だ」とされ、子どもの固有の権利があまり大事にされていないと言われている。そういう認識に立って子どもの貧困を見た場合、保護者の問題としないで、子どもをきちんと守っていこうという話ができると思う。

<馬場委員長>

子どもの貧困といった場合、「それは家庭の状況だ」「子どもを育てない親が悪い」という一般論がある。それぞれが子どもの権利条約の原文を読んで、権利条約そのものではなく、そのことから子どもの貧困についてどう考えるか、各委員が問題点等を出し合うところから始めてはどうか。また、京都府の貧困対策推進計画も材料にしてはどうか。

<酒井委員>

さらに、今まで一般質問や委員会が出た質問・質疑に対する市の答弁を整理することで、市の考え方が分かるので、資料として持っておいてはどうか。それを一緒に進めていかないと、子どもの権利という方向に拡散してしまう。

<馬場委員長>

子どもの権利、貧困で会議録を検索するのか。

<酒井委員>

最近の本会議では、馬場委員長や山本議員、田中議員が質問されている。ただ、それぞれが長い文章を見てくるより、資料にして整理してはどうか。横の連携をどうするのかという質問もされていたが、連携する必要があるという曖昧な答弁であっ

た。そういうものを整理しておくことで、本会議ではそのまま終わってしまったものを、委員会ですっきりと確認していくことができる。

<馬場委員長>

直近の質問の内容と答弁について整理できるか。

<事務局主任>

整理し、資料として配付する。

<馬場委員長>

16期の分だけでよい。子どもの権利条約と、京都府子どもの貧困対策推進計画、議会での質問と答弁の3つの資料を集め、これから方向性を決めていきたい。

<福井委員>

それでよいが、それとは別に現場の声を聴きたい。委員会に呼べるのではないか。教育委員会は所管が違うから難しいのか。

<馬場委員長>

プライバシーに関わる部分がずいぶん入る。保育所にしろ学校現場にしろ、どこまで言ってよいのかという指針はあるのか。一般論にしてよいことと、個人のプライバシーだと突かれるところがある。

<議事調査係長>

事務局としては、総務文教常任委員会があるので、環境厚生常任委員会だけで決めて教育委員会を呼ぶのは難しい。総務文教と連合審査会という形も考えられる。プライバシーの関係については、誰を招致するかということも1つあるが、十分配慮して話していただくことが前提である。例えば、保育士や各相談機関などが考えられるが、それは十分踏まえていくべきだと考える。

<馬場委員長>

検討課題として整理が必要である。連合審査会でできれば一番良い。できるだけ幅広く意見を聴ける体制をとっていきたい。

<議事調査係長>

補足であるが、健康福祉部など環境厚生在所管に係る部であれば、例えば現場の保育士などは、連合審査会でなくても意見を聴くことができる。ただし教育委員会は別である。

<福井委員>

どうしても教育委員会を呼ぶということになれば、委員会ごと政策研究会にすれば全部クリアできるのではないか。

<馬場委員長>

いろいろな形態で、できるだけ実態をつかんでいくような努力をしていきたい。

～14:08

4 その他

○議会だよりの原稿について

<馬場委員長>

事務局から説明を。

<事務局主任>

12月定例会の審査内容を議会だよりに掲載するが、閉会日の委員会で決定した敬老事業の内容について、広報部会から少し分かりにくい部分があるとの指摘があっ

た。①前文「高齢者福祉が重要性を増す中」とはどういうことか。②「見直しの考え方」に書かれている内容は、見直しの「考え方」というより「内容」である。また、金額等の詳細を書くと、決まったことであるとの誤解を与える可能性があるのではないか。③委員の主な意見「高齢者の外出促進の延長上に敬老会がある」が少し分かりにくい。敬老会は外出促進だけではないのではないか。これらの意見を踏まえ、正副委員長と相談し、別紙2の下側「変更案」を作成した。一度委員会で決定したことなので、変更しないのも1つの答えではあるが、委員会の趣旨を変えず、より分かりやすくできるのであればと思い配付した。協議いただきたい。

<馬場委員長>

広報部会から分かりにくい部分があるという指摘があった。それを受けて協議してきたが、結論として、正副委員長としてはこの方向で変更してよいのではないかと考える。確かに上段は金額があって分かりやすいと思うが、それが先走ってしまう点もある。

<酒井委員>

独り歩きすると困るということだと思うが、決定したものではないと明記しておけばよい。その部分に変更する必要はないのではないか。

<福井委員>

どちらでもよい。

<馬場委員長>

突っぱねた場合はどうなるのか。広報部会に従うことになるのか。

<事務局主任>

細かい文言の修正は広報部会で入ると思うが、当委員会の意思を尊重すべきである。例えば数字を入れるかどうかなど、大きい部分については、常任委員会を尊重すべきである。

<平本副委員長>

私と小川委員は広報部会に入っているが、我々は当委員会に所属しているので、委員会での流れが分かっている。しかし広報部会だけに出席する人がこの文面を目にすると、当然委員会での流れが分からず、分かりにくいという意見だったので修正した。金額は、決定したことだと誤解されるかもしれないので削除してはという申し出なので、入れる・入れないは常任委員会で判断し、決定したものではないという注意書きで見える人が分かるのであれば、それでよいと思う。

<奥村委員>

逆に、変更したら意味がわからない。総論ではなく、もう少し各論を言ったほうがよい。見直しの考え方ではなく、市の考え方・市の提案と言う形で書いたらよいのではないか。

<平本副委員長>

そのような意見もあったが、「提案」とすると、正式な提案があったかのように思われるので、広報部会の意見としては「提案」とはしていない。

<福井委員>

予算が通ってないので確かに金額は決まっていない。どちらでもよいが、上段でいくなら「見直しの考え方」のタイトルだけ変えればよいのではないか。

<馬場委員長>

「見直しの方向性」にするか。

<福井委員>

基本的に正副委員長に任せる。金額を入れた方がよいという意見があったが、入れ

なくてもよいと思う。減額するかわりに高齢者のパス事業など他のことに力を入れていくということを伝えるのが趣旨なので、どちらでもよい。

<富谷委員>

金額についてはこだわらないが、市の考え方として、具体的に知っていただいてもよいと思う。

<奥村委員>

金額が決定しているとか、していないとか言い出したら何もできない。例えばスタジアムも、決定も見積もりもしていない間に50億円という話がでてくる。読む人に半額になることを認識していただいた方が、より広報の意味があるのではないかと。

<馬場委員長>

原文のままいくということか。

<奥村委員>

そうである。

<平本副委員長>

原文でも構わないが、「見直しの考え方」が「考え方」なのか「内容」なのかということと、「高齢者福祉が重要性を増す中」が分かりにくいということもある。そこを下段の文面にするなど、ミックス案にしてもよいと考えるが、委員長の判断はどうか。

<馬場委員長>

上段の「委員会決定分」を修正し、「敬老事業は、高齢化が加速し、高齢者福祉が重要性を増す中」とし、「見直しの考え方」を「見直しの方向性」としてはどうか。

<平本副委員長>

前文も「敬老事業の見直しの考え方について」を「敬老事業の見直しの方向性について」としてはどうか。

<馬場委員長>

その部分は「敬老事業の方向性について」でどうか。

<事務局主任>

「見直しの方向性」の欄に「決定したものではありません」という一文が必要か、また、「委員の主な意見」の1つめの意見の扱いはどのようにするか協議いただきたい。

<福井委員>

「決定したものではありません」は要らない。

<奥村委員>

委員会向けに提示した情報なのか、市民に提示してよい情報なのか、所管部に確認する必要があるのでは。さらに減額したり、金額が変わる可能性もあるかもしれない。

<馬場委員長>

自治会は明確にこの金額の提示を受けている。だから紛糾して激変緩和という話になっている。今の時点ではこの内容で進んでいるので、これでよいと考える。また「決定したものではありません」も不要である。「委員の主な意見」の1つめは、私は下段のほうが委員会の議論に合ったものだと考える。それで整理できるか。

<事務局主任>

(変更内容を読み上げ)

<馬場委員長>

以上でよいか。

<了>

<馬場委員長>

2月は臨時会の開催も考えられるが、次回の月例は、どのようにするか。

<事務局主任>

臨時会は総務課と調整中であり、開催するかどうかは決定していない。開催する場合は2月15日となる予定で、招集告示は2月8日となる。

<馬場委員長>

臨時会までに開催するか。

<酒井委員>

8日に開催してはどうか。

<事務局主任>

招集告示日はいろいろと会議があるため難しいかもしれない。

<福井委員>

臨時会までに開催してはどうか。

<馬場委員長>

開催することでよいか。

<了>

[日程調整]

<馬場委員長>

今回は2月9日（木）13時30分からとする。

<酒井委員>

先ほど言った3点の資料は、各自で事前に確認しておくのか。

<事務局主任>

事務局で資料を準備し、次回の委員会の前にレターケースに入れておく。

散会 ～14:34